

在土八幡神社と藤





在士八幡神社紫藤樹

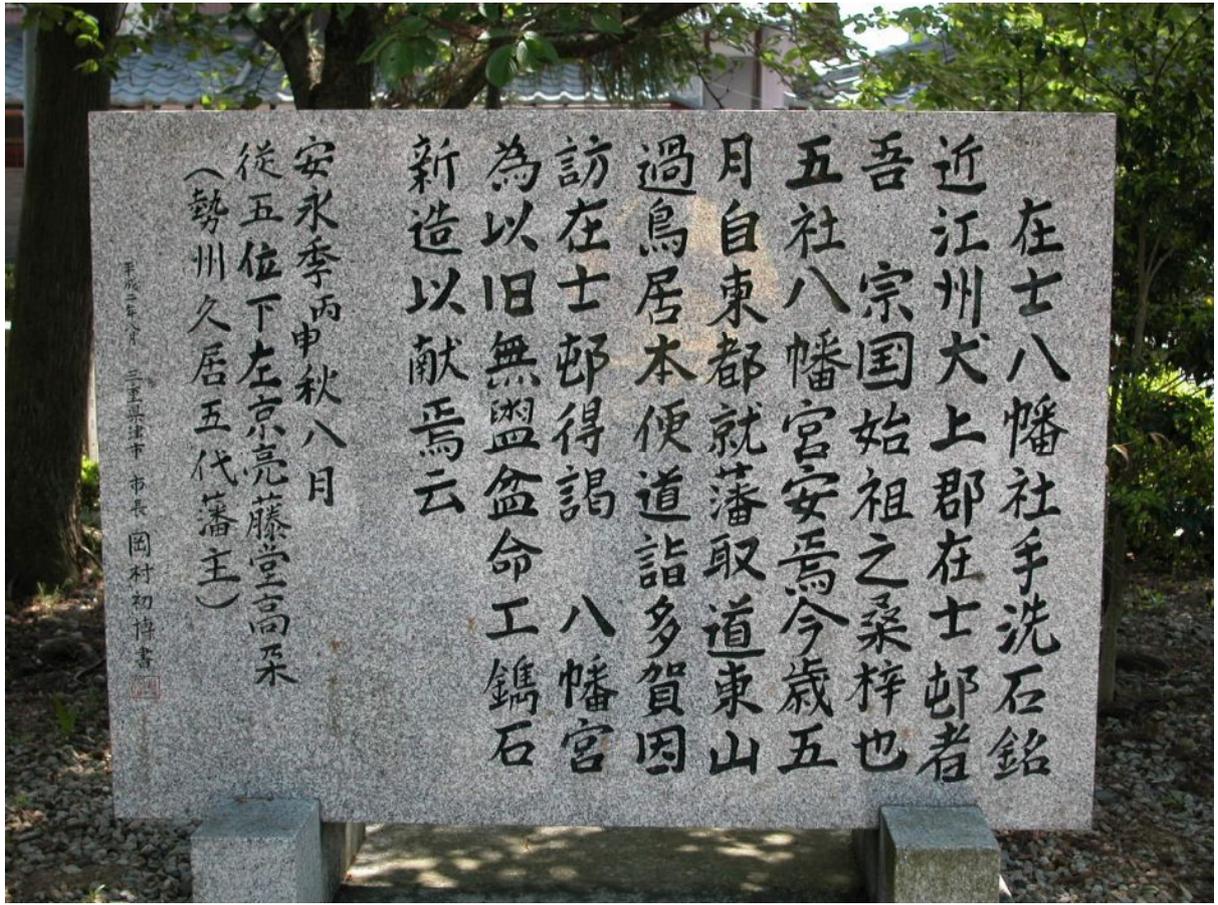
大守在士は江戸時代の伊勢国津の城主藤堂氏の出身地で応永年間に藤堂三河守景盛が石清水八幡を勧請したのが同字八幡神社の草創で勧請と同時に紫藤一株を植えて子孫の繁栄を祈願した。その後社地の杉、榿の巨木にからみ藤の森の如く繁茂したが、巨木の老化および倒木により減少した。現在鳥居脇に二株による棚と本殿裏の柱に株を残存している。老樹にして由緒ある藤樹である。



拝殿建立記

八幡神社本殿は寛永年間
に津藩主藤室高虎公の嗣
子高次公が造営され、以
て米屋を修築された。代々
の奉納し神社は愈々栄えた
旧拝殿は百余年を経て
老朽傾に達し、氏子相
計って改築を決議し、
建立の構想をたて資金
を集む。区内の氏子は
基金を月々積立て、他
所には有志を訪ね、淨
財の寄進を受く。平成
四年三月、吉日を卜し
地鎮祭を行い、建設
の樞音林に本堂し、
同年十一月壯麗なる拜
殿竣工す。時に篤志
者ありて由緒ある手水
舎を寄進され、区内の
全戸、家族等して石柱
を献じ玉垣を造って
神地厳かさを増す
ここに拝殿は以諸施設
完成を喜ばせの由水も記
す。

平成八年四月吉日
八幡神社氏子中





戦国武将 藤堂高虎公と高虎公園



